

「熱測定応用研究の頁」の問題 と投稿についてのお願い

熱測定応用研究グループ 主査 前園明一

1980年当時、熱測定学会会長の神戸教授の発案で学会活動の一つとして、熱測定応用研究グループが発足して以来、15年の歳月が経過したり。その間、学会誌上の「熱測定応用研究の頁」も、解説記事として50篇を越えるに至った。これは今までのグループの方々および執筆者のご努力と会員の協力でご賜物であり、ここに厚く感謝申し上げる。

しかし、それはそれとして問題がないわけではない。それは現在までの「熱測定応用研究の頁」に対して昨年、学会誌編集委員会と幹事会において、「熱測定応用研究の頁」は、発足当時、2頁程度を特別に割り当てて、1ないし2篇の解説記事をグループの責任で集めて掲載してきた。ところが最近1つの解説記事で数頁に及ぶものもあり、一般論文とかわらない。初めの状態に戻してもらえまいか」という提案がグループに提出された。

確かに1983年の1月号に小沢丈夫博士(現学会長)の熱測定応用の頁の第一号が掲載され、それ以降ほぼ数年は、毎月1頁ないし2頁の解説記事が1ないし2篇、掲載されてきた。しかし、特に学会誌上に「熱測定応用研究の頁」の執筆要領についての会告やお知らせは見当たらないままに、初めは内輪でできていたルールも、いつしか新人に交替するとともに、現在のように長い論文形態に拡散したものと考えられ、このことは「熱測定応用研究の頁」の執筆要領が公表されていなかったことに起因すると思う。

そこで十時編集委員と相談の結果、編集委員会の提案にしたがって、初心に戻り「熱測定応用研究の頁」執筆要領を以下のように提案したい。是非、初心の趣旨に沿っての投稿を期待したい。特に現在、今まで、および今後の「熱測定応用の頁」の解説記事を再編集して、「熱測定応用」(仮称)の図書の出版発行を計画中で、新しい「熱測定応用の頁」への投稿を強く期待申し上げる次第である。

1. 原稿の長さ：

原則として、1篇の解説記事を刷り上り2頁以内とする。1頁2300字、2頁で4600字(図表、表題を含む)となる。もし表題、図表の大きさをそれぞれ1/6頁とすると、4つの図表を含む原稿は、2680字(400字詰原稿用紙で、7枚弱)以内となる。

これ以上、大幅に増頁しないと解説できない場合は、一般論文として投稿願いたい。

2. 解説の内容：

主として熱測定の応用事例の紹介と解説を内容とする。「熱測定」の範囲は、熱分析、定温カロリメトリ、および熱膨張率、熱伝導率などの熱的性質の測定も含むものとし、特に厳密に考えずに広く応用事例を募集したい。

以下に応用事例のいくつかを参考までにあげた：

- ① あらゆる工業材料(素材、原料、生産品)、食品、生体、動植物、鉱物も含んで、その試料と熱測定結果の紹介と解説、(例：ステンレス鋼の熱膨張、ポリエチレン製品のDSC、新米と古米の熱分析、など)。
- ② 工業材料、食品、生体、動植物、鉱物などの検査、研究に役立つ新しい熱測定機器の開発、試作、応用例の紹介と解説。
- ③ 熱測定機器と他の測定機器との複合測定機器の工業への適用例の紹介と解説 (例：熱天秤—質量分析計システムによるICの材料の検査)。
- ④ 新しい熱測定法の工業材料への適用例の紹介と解説 (例：mDSCによるPETの熱分析、動的熱機械分析による食品検査への応用など)。
- ⑤ 熱測定の理論的な解析法の工業材料への適用例の紹介と解析、(例：反応速度論的解析法による高分子絶縁材の高温劣化の評価)。
- ⑥ 厳密な意味で熱測定ではなくても、熱測定の技術を工業材料の検査、分析などに適用している例の紹介と解説 (例：定温のTMA機械を利用したタイヤゴムの品質管理)。
- ⑦ 熱測定による新しい工業的プロセスの開発の紹介と解説 (例：真空熱天秤法蒸気圧測定の高分子蒸着重合プロセスへの応用)。
- ⑧ 熱測定に関係ある新しい、または改訂された工業規格の紹介と解説 (JIS, ISO, ASTM など)。
- ⑨ 上記の応用事例についての問題点の指摘およびその討論。

3. 投稿先：

「熱測定応用の頁」の投稿原稿は、学会事務局内「熱測定

応用の頁」係あてに郵送されたい。原稿は必ずコピーをとり、コピーは手元に控えとして保管すること。

4. 投稿締切：

「熱測定」誌は年4回、1, 4, 7, 10月に発行され、毎号の原稿締切は3ヶ月前の月末である。したがって、10月号の掲載文の原稿は、遅くとも7月中頃までに学会事務局あて送付願いたい。

5. 投稿規定：

一般論文の投稿規定に従う²⁾。

6. 投稿後の取扱：

熱測定学会事務局に郵送された投稿原稿は、直ちに事務局よりグループ主査あてに送られる。本頁は紹介記事の性格から、一般論文、解説に対する査読は行わず、主査はただ

原稿の内容が学会誌の読者に対して、ふさわしいかどうかを調べて、場合によっては修正をお願いすることがある。次に学会誌編集委員会に送付され、承認後、印刷に回される。

校正は初校のみ著者校正となる。事務局より送付された初校を、手元に保管しておいた原稿コピーにより校正し、指定期日以内に事務局あて返送願いたい。

文 献

- 1) 石井忠雄；熱測定 7 (3) (1980)，会告「工業熱測定研究グループ」。
- 2) 投稿規定；熱測定 21 別刷，70-73 (1994)。